

2018年度

Q3連結累計期間決算及び
通期業績予想修正説明資料

2019年2月8日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

I. 2018年度Q3累計 連結決算概況

- | | |
|---------------|-----|
| 1. 収支の状況 | P3 |
| 2. 財務の状況 | P8 |
| 3. 資源セグメントの状況 | P12 |

II. 2018年度 業績予想修正

- | | |
|-------------------|-----|
| 1. 総括 | P13 |
| 2. 前回公表比較 | |
| (1)市況・生産量 | P14 |
| (2)収支 | P15 |
| 3. Q4の考え方 | |
| (1)市況・生産量 | P16 |
| (2)収支 | P17 |
| (3)資源セグメント | P18 |
| 4. CBHエンデバー減損の考え方 | |
| (1)概要と今後の投資計画 | P19 |
| (2)今後の採掘・開発対象鉱区 | P20 |
| (3)詳細 | P21 |
| 5. 四半期単位比較 | P22 |

III. 1/30公表資源案件の財務インパクト

P24

IV. 2018年度配当予想修正

P26

V. 2018年度 感応度

P27

I. 2018年度Q3累計 連結決算概況

1. 収支の状況

(1)総括

7～9月の金属相場急落を起因として、製錬セグメントの在庫評価損益が大幅に悪化、加えて資源セグメントにおいてもC B Hエンデバー鉱山の操業状況がふるわなかったことから、連結営業利益は若干の赤字となりました。また、C B Hエンデバー鉱山の2019年生産計画の変更によりキャッシュ・フロー予想が大幅に減少したことから、減損を余儀なくされ、連結純利益は△22.7億円の赤字となりました。

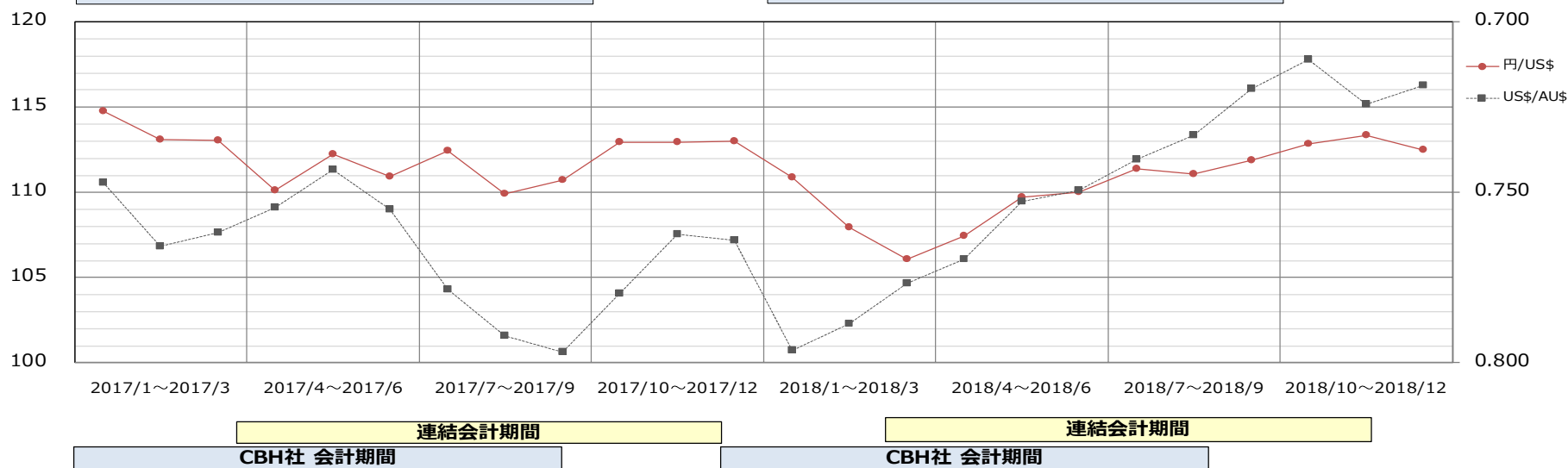
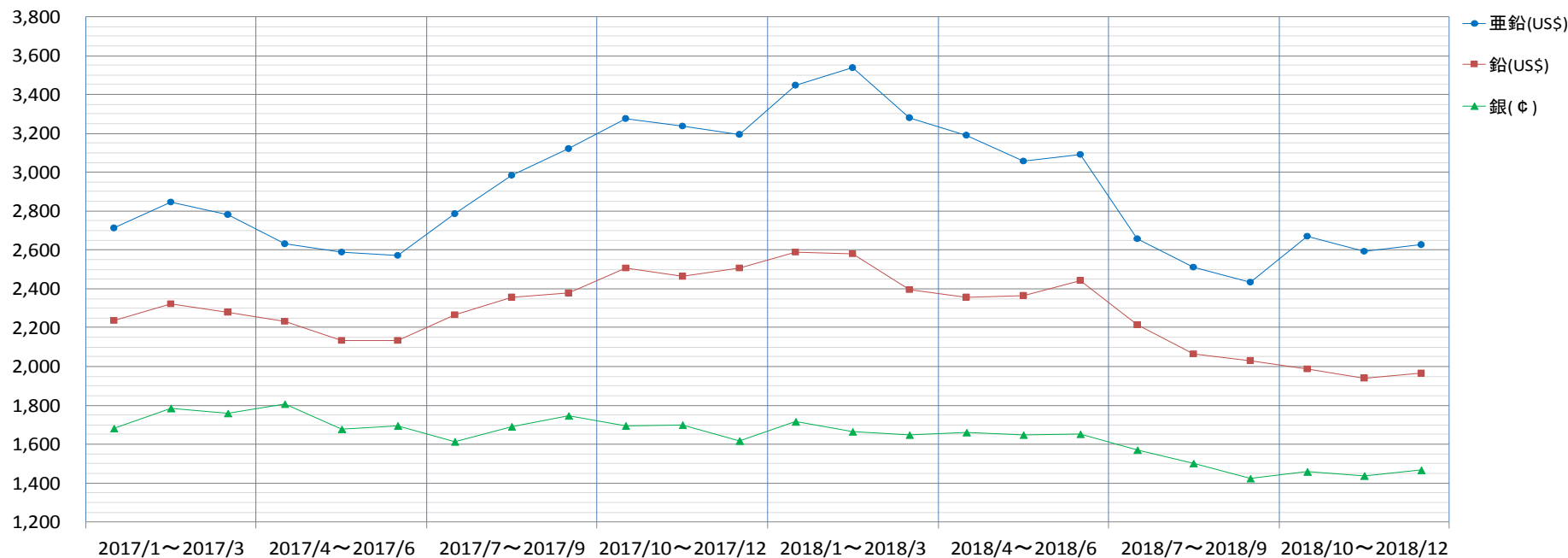
創業来最高益を計上した前年と比較すると、当然ながら前年同期比大幅減益となります。特に製錬セグメントの先入先出影響、資源セグメントの親子間取引の調整、C B Hエンデバー鉱山の不調等が大きく影響しました。

単位:億円

連結売上高	903
連結営業利益	△0.4
連結経常利益	3.9
連結純利益	△22.7

1. 収支の状況

(2)市況推移



1. 収支の状況

(3)前年同期比較(市況・生産量)

			前年同期	Q3累計	差(実額)	差(%)
市況	亜鉛(米\$/t)		2,932	2,759	△172	△6
	鉛(米\$/t)		2,331	2,151	△180	△8
	銀(米\$/toz)		16.9	15.4	△1.6	△9
	円/米\$		111.7	111.1	△0.6	△1
	米\$/豪\$(1-9月)		0.775	0.760	△0.015	△2
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)		72.9	74.9	2.0	3
	鉛製品(千t)		73.8	69.6	△4.3	△6
	電気銀(t)		274	236	△38	△14
資源セグメント CBH社関連(1-9月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	297	470	173	58
		ラスプ	521	558	37	7
		計	818	1,028	210	26
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	32.8	38.8	6.1	18
		ラスプ	38.9	42.8	3.9	10
		計	71.7	81.6	10.0	14
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	19.5	20.7	1.2	6
		ラスプ	19.3	22.4	3.2	16
		計	38.8	43.1	4.3	11

1. 収支の状況

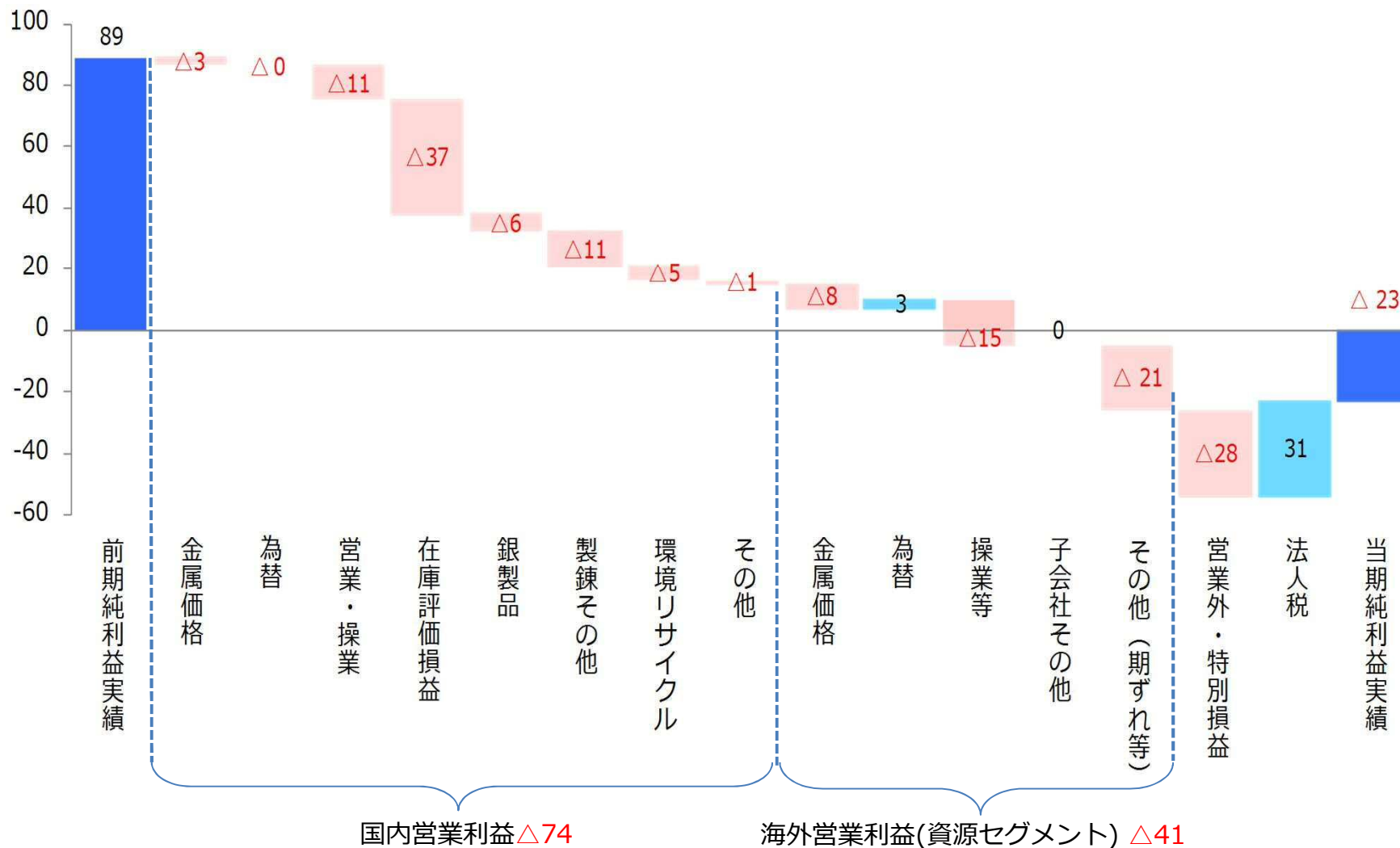
(4)前年同期比較(収支)

		前年同期	Q3累計	差(実額)	差(%)	
収支	売上高(億円)	1,016	903	△113	△11	
	営業利益(億円)	製錬	41.9	△26.5	△68.4	-
		資源	53.1	12.2	△40.9	△77
		電子部材	4.6	4.4	△0.1	△3
		環境・リサイクル	14.4	9.5	△4.8	△34
		その他	5.3	△2.8	△8.1	-
		調整額	△4.2	2.7	6.9	-
		計	115.0	△0.4	△115.5	-
	経常利益(億円)	114.6	3.9	△110.7	△97	
	純利益(億円)	89.2	△22.7	△112.0	-	
EBITDA(億円)	158.0	76.1	△81.9	△52		

1. 収支の状況

(4)前年同期比較(収支)

単位：億円



2. 財務の状況

(1)貸借対照表(資産の部)

単位：億円

		2018年3月末 実績	2018年12月末 実績	差(実額)	
流動資産	現金・預金	138	111	△27	
	受取手形・売掛金	201	178	△23	
	たな卸資産	419	392	△27	
	その他	19	54	35	
	計	778	736	△41	
固定資産	有形固定資産		409	393	△16
		内CBH社関係	96	82	△14
		(豪\$百万表示)	(109)	(95)	(△14)
	無形固定資産		125	121	△4
		内CBH社関係	124	120	△4
		(豪\$百万表示)	(141)	(138)	(△3)
	投資その他	60	63	3	
計	595	577	△18		
資産 合計		1,373	1,314	△59	

2. 財務の状況








(1)貸借対照表(負債・純資産の部)

単位：億円

			2018年3月末 実績	2018年12月末 実績	差(実績)
負債の部	支払手形・買掛金		77	73	△4
	有利子負債	CP	80	100	20
		短期借入金	115	114	△1
		長期借入金	332	309	△23
		有利子負債計	526	522	△4
	その他負債		145	154	9
	計		749	750	1
純資産の部	株主資本	資本金	146	146	0
		資本剰余金・自己株式	98	98	0
		利益剰余金	252	212	△40
		株主資本 計	497	457	△40
	その他包括利益累計額		127	107	△20
	計		624	564	△60
負債・純資産 合計			1,373	1,314	△59

2. 財務の状況

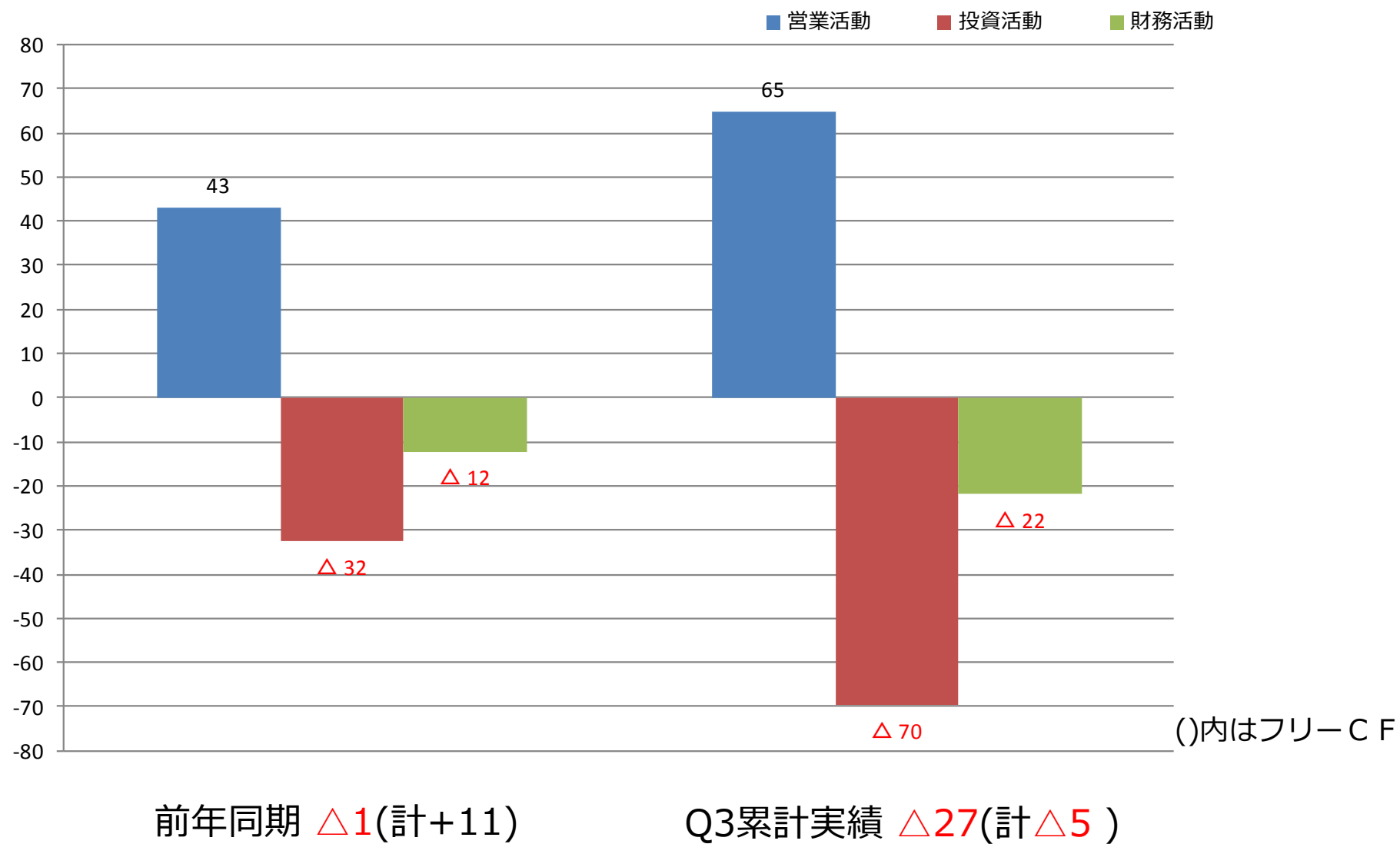
(2)主要財務指標の変化

	前年同期		Q3累計	評価
自己資本比率	43.5%		42.9%	悪化
D/Eレシオ	0.89倍		0.93倍	若干悪化
D/EBITDAレシオ (年換算)	2.6倍		5.1倍	大幅悪化
純利益/自己資本(ROE) (年換算)	19.3%		△5.1%	大幅悪化
純利益/売上高	8.8%		△2.5%	大幅悪化
売上高/総資産	1.0回転		0.9回転	悪化
総資産/自己資本	2.3倍		2.2倍	改善

2. 財務の状況

単位：億円

(3) キャッシュ・フローの推移



3. 資源セグメントの状況

前年同期比△40.9億円

⇒内、CBH社営業利益 △20.2億円

(内、市況等他律要因 △5.0億円)

①エンデバー鉱山

前年同期比△15.5億円(内、市況等他律要因 △2.7億円)

他律要因を除くと△12.8億円の減益→粗鉱品位悪化に伴う採鉱コスト高

②ラスプ鉱山

前年同期比 △5.4億円(内、市況等他律要因 △2.3億円)

他律要因を除くと△3.1億円の減益→償却費負担増によるコスト高

③期ずれ等

前年同期比△20.7億円⇒前年度は相場の高かった2017年10月～12月の利益を取り込む調整を行った。一方、今年度は相場の高かった2018年1月～3月の利益を控除し、相場の低迷した2018年10月～12月の利益を取り込む調整を行ったため、前年同期比では大幅な減益となった。

利益(億円)		前年同期	Q3累計	差(実額)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	19.1	3.6	△15.5 ①
	ラスプ鉱山	20.0	14.6	△5.4 ②
	その他	0.7	1.4	0.7
	計	39.9	19.6	△20.2
その他(期ずれ等)		13.2	△7.4	△20.7 ③
資源セグメント利益		53.1	12.2	△40.9

Ⅱ. 2018年度 業績予想修正

1. 総括

営業利益においては、Q3が10/23公表比で増益となりましたが、Q4は10/23公表比で大幅減益の予想となり、通期で6億円の赤字見込みとなりました。

Q3で金属価格が一時的に回復したものの、Q4はQ3比金属相場が低位で推移する前提としたため、製錬セグメントにおいては在庫評価損益の悪化見込みとなりました。一方、CBHエンデバー鉱山は下期を通じて不調となりました。

また、CBHエンデバー鉱山の減損損失をQ3で31億円、Q4で10億円計上するため、連結純利益は35億円の赤字となる見込みです。以上の理由により、昨年10/23に引き続き2回目の業績予想の下方修正を余儀なくされました。

単位:億円

	2018/5/10 公表	2018/10/23 公表	2019/2/8 業績予想修正	10/23修正比差分	
				Q3影響 (実績)	Q4影響 (予想)
連結売上高	1,370	1,210	1,180	15	△45
連結営業利益	110.0	13.0	△6.0	5.2	△24.2
連結経常利益	108.0	20.0	0.0	1.9	△21.9
連結純利益	93.0	21.0	△35.0	△29.8	△26.2

2. 前回公表比較

(1)市況・生産量

		10/23 公表ベース	業績予想修正前提	差(実額)	差(%)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,660	2,719	59	2	
	鉛(米\$/t)	2,120	2,113	△7	0	
	銀(米\$/toz)	14.9	15.4	0.5	3	
	円/米\$	111.0	110.6	△0.4	0	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.750	0.748	△0.002	0	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	103.6	102.4	△1.2	△1	
	鉛製品(千t)	88.3	87.0	△1.3	△1	
	電気銀(t)	303	277	△25	△8	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	667	646	△21	△3
		ラスプ	741	738	△3	0
		計	1,408	1,383	△25	△2
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	54.9	53.0	△1.9	△3
		ラスプ	61.1	60.0	△1.1	△2
		計	116.0	113.0	△3.0	△3
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	29.0	27.8	△1.2	△4
		ラスプ	31.7	32.6	0.9	3
		計	60.7	60.4	△0.3	0

2. 前回公表比較

(2)収支

	10/23 公表 ベース	今回修正通期	差(実額)		差(%)		
			Q3	Q4(予想)			
売上高(億円)	1,210	1,180	△30	15	△2		
営業利益(億円)	製錬	△35.0	△42.0	△7.0	9.5	△16.5	-
	資源	23.0	17.0	△6.0	0.9	△6.9	△26
	電子部材	6.0	6.0	0.0	△0.2	0.2	0
	環境・リサイクル	14.0	12.0	△2.0	△0.8	△1.2	△14
	その他	5.0	△2.0	△7.0	△5.0	△2.0	-
	調整額	0.0	3.0	3.0	0.8	2.2	-
	計	13.0	△6.0	△19.0	5.2	△24.2	-
経常利益(億円)	20.0	0.0	△20.0	1.9	△21.9	-	
純利益(億円)	21.0	△35.0	△56.0	△29.8	△26.2	-	
EBITDA(億円)	76.0	95.9	19.9	36.1	△16.2	26	

3. Q4の考え方

(1) 市況・生産量

		上期実績 (A)	Q3実績 (B)	Q4前提 (C)	通期前提 (A+B+C)	
市況	亜鉛(米\$/t)	2,824	2,630	2,600	2,719	
	鉛(米\$/t)	2,245	1,964	2,000	2,113	
	銀(米\$/toz)	15.8	14.5	15.5	15.4	
	円/米\$	110.3	112.9	109.0	110.6	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.774	0.731	0.718	0.748	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	47.8	27.2	27.4	102.4	
	鉛製品(千t)	44.8	24.7	17.4	87.0	
	電気銀(t)	153	83	41	277	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	291	179	176	646
		ラスプ	368	190	180	738
		計	659	370	355	1,383
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	25.1	13.7	14.2	53.0
		ラスプ	27.9	14.9	17.2	60.0
		計	53.1	28.5	31.4	113.0
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	13.0	7.7	7.1	27.8
		ラスプ	13.7	8.8	10.2	32.6
		計	26.7	16.5	17.3	60.4

3. Q4の考え方

(2) 収支

		上期実績 (A)	Q3実績 (B)	Q4予想 (C)	通期予想 (A+B+C)
売上高(億円)		585	318	277	1,180
営業利益(億円)	製錬	△35.5	9.0	△15.5	△42.0
	資源	△2.0	14.2	4.8	17.0
	電子部材	3.1	1.4	1.6	6.0
	環境・リサイクル	7.8	1.7	2.5	12.0
	その他	0.9	△3.8	0.8	△2.0
	調整額	4.2	△1.4	0.3	3.0
	計	△21.5	21.1	△5.6	△6.0
経常利益(億円)		△19.3	23.2	△3.9	0.0
純利益(億円)		△12.6	△10.2	△12.3	△35.0
EBITDA(億円)		9.0	67.1	19.8	95.9

3. Q4の考え方

(3)資源セグメント

Q4(CBHは10～12月；親子会社間取引は1～3月)の資源セグメント利益は、CBH単体では11.2億円の営業黒字なるも、親子会社間取引の決算期ずれ調整等の影響で6.4億円のマイナスとなり、結果として4.8億円の黒字見込み。

①エンデバー鉱山

生産は引き続き計画比不調ではあるものの、Q3比では増益の2.7億円の見込み。

②ラスプ鉱山

採鉱コスト増加はあるものの、生産は概ね順調に推移。

③期ずれ等

金属相場がやや戻した2018年10月～12月の利益を控除する調整、新規投資案件関連コスト計上、亜鉛スポットTCの急上昇等の要因。

利益(億円)		上期実績 (A)	Q3実績 (B)	Q4予想 (C)	通期予想 (A+B+C)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	2.8	0.8	2.7	6.3 ①
	ラスプ鉱山	9.5	5.1	7.6	22.2 ②
	その他	1.2	0.2	1.0	2.4
	計	13.6	6.1	11.2	30.9
期ずれ等		△15.6	8.1	△6.4	△13.9 ③
資源セグメント利益		△2.0	14.2	4.8	17.0

4. CBHエンデバー鉱山減損の考え方

(1) 現中計における2019年から2020年の採掘・開発計画



4. CBHエンデバー鉱山減損の考え方

(1) 現中計における2019年から2020年の採掘・開発計画

エンデバー鉱山(Main Lode鉱体付近) 断面図

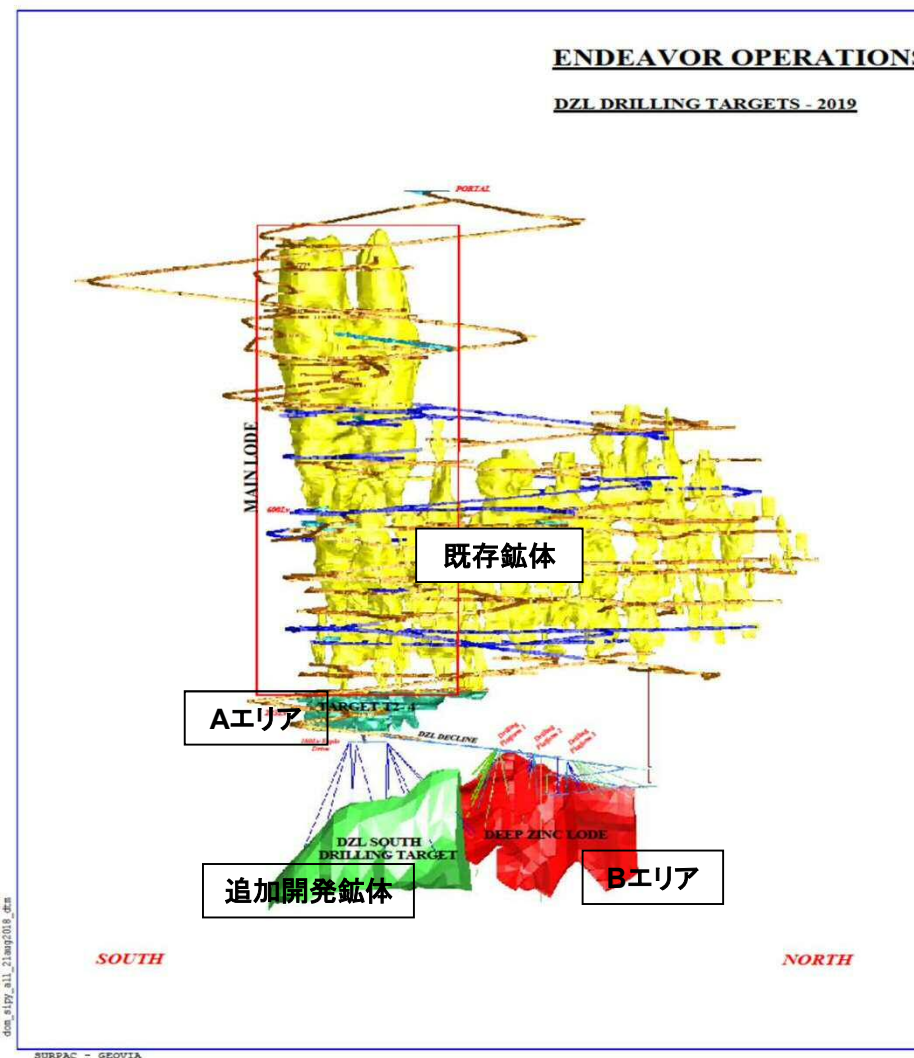
既存鉱体 (Main Lode→2019年採掘計画)
Aエリア (Target 2/4→2019年採掘計画)

Bエリア (Deep Zinc Lode→2020年採掘計画)

	粗鉱 処理量	亜鉛精鉱生 産量	鉛精鉱 生産量
2019年 (計 画)	720千トン	64千トン	24千トン
2020年 (計 画)	720千トン	83千トン	8千トン

Bエリア及び隣接する追加開発鉱体

可採鉱量の増加に寄与することが有望と見られる鉱体。
開発を強化し、2019年中頃には成否が判明する予定



4. CBHエンデバー鉱山減損の考え方

(2)今後の投資計画

2018年度連結Q3においてエンデバー鉱山の採掘計画を見直した結果、鉱山の固定資産の公正価値が簿価を下回ることが判明したことから、（修正後発事象として）当四半期において31億円（37百万豪ドル）の減損損失を計上することとなった。

同鉱山においては、可採鉱量の増加を目指してBエリア及び隣接する追加鉱体の開発を強化することとし、以下のスケジュールで、同鉱体の開発を含む設備投資を行う計画である。同鉱体の探査・開発の成否は2019年中頃に判明する計画だが、成否が判明するまでは可採鉱量の増加を固定資産の公正価値（時価）の計算に反映できないため、当面は公正価値が簿価を下回る状態が続く。

これは、2018年10月以降、成否の判明までの設備投資は即時費用化（減損）せざるを得ないことを意味する。

単位：百万豪ドル

時間の経過 ↑	2019年10～12月 固定資産投資額（計画）	9	Bエリア及び隣接する追加鉱体の探査・開発状況次第で減損の是非を決定
	2019年7～9月 固定資産投資額（計画）	12	
	2019年4～6月 固定資産投資額（計画）	7	
	2019年1～3月 固定資産投資額（計画）	8	2019年度連結Q1で減損予定⇒(3)③
	2018年10～12月 固定資産投資額（実績）	13	2018年度連結Q4で減損予定⇒(3)② *2
	2018年9月末 減損テスト対象固定資産	37	2018年度連結Q3累計期間で減損⇒(3)① *1

*1：連結Q3におけるCBHの決算期は2018年9月。連結Q3期末（2018年12月）後の減損テストを経て、修正後発事象としてエンデバー鉱山の2018年9月の固定資産を減損した。

*2：連結Q4におけるCBHの決算期は2018年12月であることから、2018年10月～2018年12月のエンデバー鉱山の設備投資額が連結Q4における減損対象となる。

4. CBHエンデバー減損の考え方

(3)詳細

①2018年度連結Q3（CBHにおける2018年9月期）での状況（2018年度）

2018年度連結Q3において、2019年度のエンデバー鉱山の見積フリーCFがマイナスとなることが判明したため、当四半期において、（修正後発事象として）エンデバー鉱山で37百万豪ドルの減損損失を計上するに至った。

a. 採掘計画修正	△29百万豪ドル	}	市況が当初前提を下回ったことに加え、 a.及びb.を主因として2019年度フリーCF△42百万豪ドル
b. 追加設備投資	△13百万豪ドル		

- a. 安全性への配慮などの理由から、2019年度における既存鉱体等の採掘計画が変更され、2019年度採掘予定部分が延期となった影響。
- b. Bエリア及び隣接する追加鉱体の開発の影響。

② 2018年度連結Q4（CBHにおける2018年12月期）の状況（2018年度）

上記①記載の状況を鑑み、Bエリア及び隣接する追加鉱体の開発を強化することとした。同鉱体の資源量の有無は2019年中頃に判明する計画。資源量の有無が判明するまでは可採鉱量の増加を将来見積CFの計算には織り込めないため、フリーCFはマイナスのままとなる。よって2018年10月から12月のエンデバー鉱山への投資額（13百万豪ドル）は即時費用化（減損）されることとなる。

③2019年度連結Q1（CBHにおける2018年3月期）の状況（2019年度）

状況は上記②と変わらず、2019年1月から3月のエンデバー鉱山への投資額（8百万豪ドル）は即時費用化（減損）されることとなる。

上記①～③の処置はあくまで会計ルールに基づき減損損失を計上するもの。当社としては、2019年中頃に可採鉱量増加の成否が判明し、キャッシュフロー創出が見込める前提で開発計画を推進する。

5. 四半期単位比較

2018年度		Q1実績	Q2実績	Q3実績	Q4予想	通期予想
売上高(億円)		307	278	318	277	1,180
営業利益 (億円)	製錬	4.1	△39.6	9.0	△15.5	△42.0
	内、先入先出影響等	3.3	△35.2	4.9	△13.9	△41.0
	内、ヘッジ	2.5	8.9	2.3	△0.4	13.3
	資源	1.5	△3.5	14.2	4.8	17.0
	電子部材	1.5	1.6	1.4	1.6	6.0
	環境・リサイクル	5.3	2.6	1.7	2.5	12.0
	その他	1.4	△0.5	△3.8	0.8	△2.0
	調整	2.2	1.9	△1.4	0.3	3.0
	計	16.0	△37.5	21.1	△5.6	△6.0
経常利益(億円)		15.7	△35.0	23.2	△3.9	0.0
純利益(億円)		12.2	△24.8	△10.2	△12.3	△35.0
EBITDA(億円)		30.7	△21.7	67.1	19.8	95.9

(ご参考)

2017年度		Q1実績	Q2実績	Q3実績	Q4実績	通期累計
売上高(億円)		288	351	377	320	1,336
営業利益(億円)		8.8	54.6	51.7	16.0	131.0
経常利益(億円)		9.5	54.0	51.0	17.0	131.6
純利益(億円)		7.4	40.1	41.7	14.5	103.7

Ⅲ. 1/30公表資源案件の財務インパクト

(1)案件

豪州西オーストラリア州Abra鉛鋅山開発事業への参画

(2)当社のAMPL (Abra Mining Pty Limited) への投融資総額

●プロジェクトの総開発費用 = 154百万豪ドル (90百万豪ドルは①出資、64百万豪ドルは②融資)

①当社出資額	90.0	百万豪ドル	⇒開発費用	} 2019/1/30公表の154に対応
②当社融資額 1	25.6	百万豪ドル (64百万豪ドル×40%)	⇒開発費用	
③当社融資額 2	16.4	百万豪ドル (41百万豪ドル×40%)	⇒運転資金等	
計	132.0	百万豪ドル	※全額借入で対応する	

(3)当社のD/Eレシオへの影響

今回の2018年度の収支予想及び2019年度のC B Hエンデバー鋳山減損予想を踏まえ、上記借り入れを実施した場合、D/Eレシオは現状の0.9から1.2弱に悪化する。当面の財務規律の上限に近付くと想定。

(4)CF予測（プロジェクト全体）

相場前提：2,000\$/t

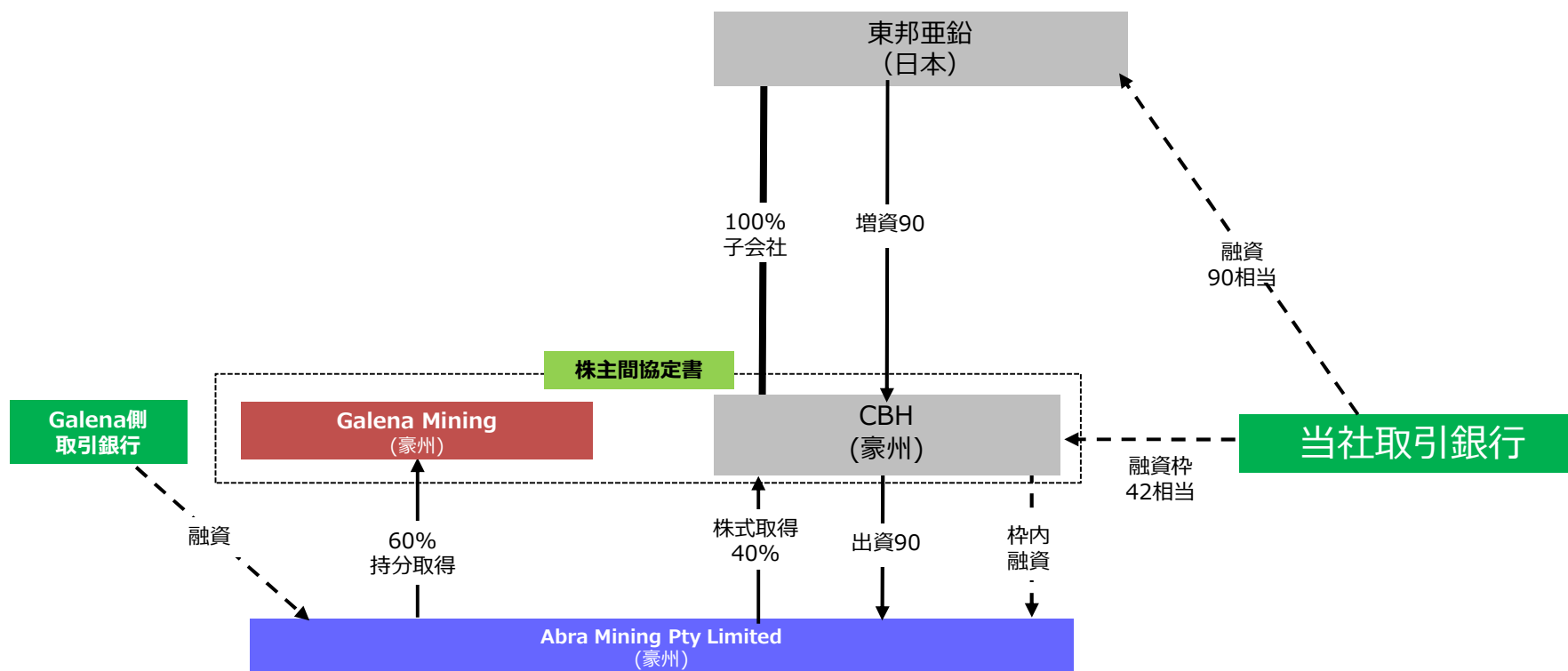
単位：百万豪ドル

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年 ~2033年	合計
フリーCF	△50	△122	18	29	49	32	50	64	51	236	357
借入元本	0	82	23	0	0	△22	△22	△21	△20	△20	0
増資	50	40									90
CF計	0	0	41	29	49	10	28	43	31	216	447

* 当該予測は、当社独自の前提に基づき計算したものであり、合併パートナーであるGalena Mining社が公表しているものとは異なります。

(5)スキーム

単位：百万豪ドル



IV. 2018年度配当予想修正

2019年2月8日公表の配当予想@70円

当初は125円配当の予想でありましたが、前記のとおり、当期は内部留保の相応の毀損が予想されます。一方で、2019年1月30日に公表しました新規鉱山への投資など、将来の事業展開に必要な内部留保の充実にも留意する必要があります。安定配当という基本方針の枠組みの中で、期末配当は1株当たり70円とさせていただきたく、投資家の皆様のご理解を賜りたくお願い申し上げます。

V. 2018年度 感応度

	変動幅	2017年度試算		2018年度試算		増減	
		連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	*内CBH	連結営業利益影響額	内CBH
亜鉛	\$10/t	¥67百万	¥46百万 (豪\$560千)	¥50百万	¥34百万 (豪\$410千)	△¥17百万	△¥12百万 (△豪\$150千)
鉛	\$10/t	¥37百万	¥31百万 (豪\$370千)	¥28百万	¥23百万 (豪\$280千)	△¥9百万	△¥8百万 (△豪\$90千)
円/米\$	1円/米\$	¥80百万	-	¥64百万	-	△¥16百万	-
米\$/豪\$	1%	豪\$2.9百万	同左	豪\$3.7百万	同左	豪\$0.8百万	同左

* 円換算は82.0円/豪\$を使用

尚、CBH社を連結する際に円/豪ドルレートを使用して円換算を行う。したがって、CBH社の豪ドル建損益水準は、連結段階では、最終的に円/豪ドルレートにより決定される。

年内精鉱生産量の1/3につきキャップとフロアーを固定したオプションを契約しており、市況感応度はキャップ－フロアー内の市況を前提としたもの。